

答申体系フレーム（案）

令和7年6月6日

基本認識

住まいは、市民生活を支える基盤であるとともに、都市を構成する重要な要素である。
住まいのあり方は、市民生活の質の向上はもとより、都市の活力、防災、環境、地域コミュニティなどと密接な関係にある。

大阪市全体のめざす方向性（大阪市未来都市創生総合戦略）

一人ひとりが多様な幸せ(Well-being)を実感でき、誰もが安心していつまでも住み続けたいと思う
「にぎやかで活気あふれるまち大阪」の実現

住宅政策の基本目標

（仮）魅力あふれる住まい・まち大阪の実現と未来への継承

～一人ひとりが多様な幸せを実感できるまちをめざして～

※2050年を見据えた住宅政策の方向性と
今後10年間に取り組むべき施策

住宅政策を取り巻く現状と課題

○少子高齢化の進行と人口減少社会の到来

- ・将来的な人口・世帯数の減少
- ・少子高齢化の一層の進行
- ・依然として続く子育て世帯の市外転出傾向
- ・都心区での人口増と周辺区での人口減少

○住宅セーフティネットの必要性の高まり

- ・単身世帯、高齢者世帯の増加
- ・住宅確保要配慮者の居住ニーズの高まり
- ・国や法制度の動向
- ・市営住宅入居・管理の状況

○住宅ストックの維持管理や再生・活用をめぐる課題の深刻化

- ・総住宅数・空家の増加
- ・住宅価格の高騰、住宅のアフォーダビリティ
- ・高経年マンションの急増
- ・活性化が求められる既存住宅の流通・活用
- ・市営住宅ストックの状況

○求められる住まいとまちの安全確保

- ・頻発化・激甚化する災害
- ・一定残る耐震性の不十分な住宅
- ・密集住宅市街地整備の進捗と残る課題

○住むまち大阪の多様な魅力の再認識

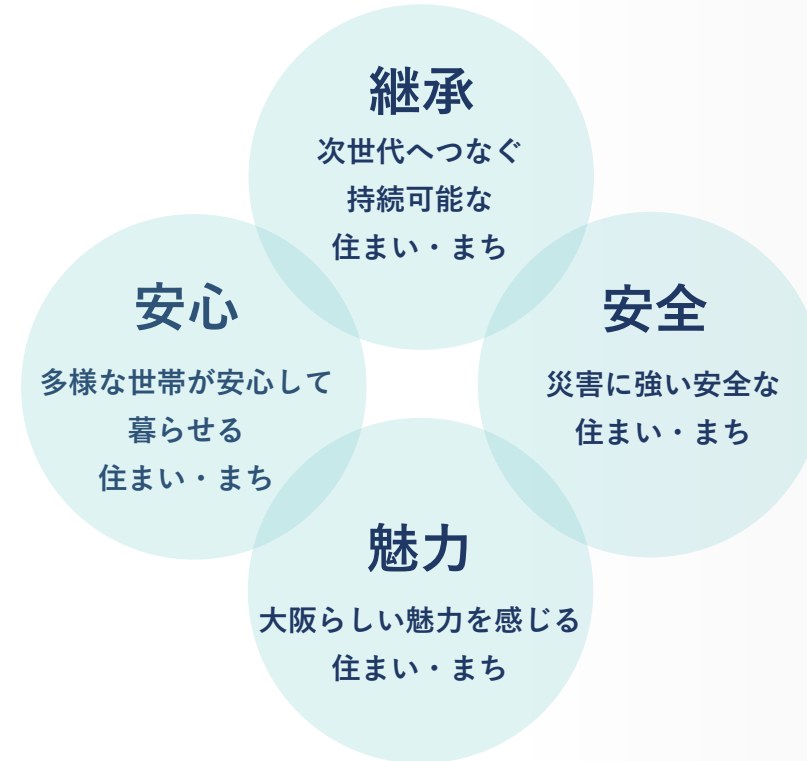
- ・活かすべき大阪の魅力
- ・地域の活力を担う多様なプレイヤー
- ・地域コミュニティの希薄化
- ・居住環境に対するイメージの向上

○新たな社会潮流への対応

- ・脱炭素社会の実現に向けた取組の重要性の高まり
- ・万博を契機としたSDGsや健康への意識の高まり
- ・デジタル技術の進展、求められる都市のDX
- ・ライフスタイルや価値観の変化
- ・人生100年時代に必要な住生活リテラシー

住宅政策の基本的な方向性

（めざす住まい・まちの姿）



施策展開にあたっての視点・姿勢

○持続可能性につながる施策展開

- ・人口構造の変化を見据えた施策展開
- ・ストック重視の施策展開
- ・脱炭素社会の実現に向けた住宅施策の役割

○包括的・横断的な視点と公民にわたる多様な主体との連携

- ・地域で活躍する多様な主体との連携（官民連携）
- ・施策間連携による住宅施策の有効性の発揮（施策横断）

○社会潮流への対応と新たな視点の導入

- ・先導的かつ柔軟な施策展開
- ・DX、GX、SDGs、Well-Being
- ・既存施策の検証と施策の重点化・再構築
- ・国や大阪府の住宅政策との連動

○大阪らしさを活かした施策展開

- ・大阪ならではの地域の魅力・価値の再認識
- ・エリア特性や地域課題に応じた施策展開
- ・地域経済の活性化など万博を契機とした更なる発展

○市内外に向けた魅力ある広報と発信力の強化

- ・魅力的かつ効果的な「伝わる広報」への転換
- ・ブランディングを意識した戦略的な広報

今後取り組むべき主要な施策

（検討中）

多様な世帯が安心して暮らせる住まい・まち

- 子育て世帯等の活力ある世代の市内定住の促進
- ・
- ・
- 住宅セーフティネット機能の強化
- ・
- ・

災害に強い安全な住まい・まち

- 安全に住み続けられる住まい・まちづくりの推進
- ・
- ・
- 大規模災害への備え
- ・
- ・

次世代へつなぐ持続可能な住まい・まち

- 民間住宅ストックの再生・有効活用
- ・
- ・
- 脱炭素社会に向けた良質な住宅ストックの形成
- ・
- ・

大阪らしい魅力を感じる住まい・まち

- 地域との連携による魅力あるまちづくりの推進
- ・
- ・
- 住まい・まちづくりに関する総合的な相談・情報発信等の充実
- ・
- ・